特集 協同学習のすすめ

笑顔はじける協同学習
― 協同学習で表現力を高める ―

小林英男
（新潟県新潟市立寄居中学校）

1. 写真集『アラスカ』を英語で表現しよう

この実践は，平成21年11月28日に，筆者が学級担任をしていた3年生（29名）のクラスで実施した公開授業である。星野道夫さんの略歴をディクテーションと読み取りで理解した後に，写真集『アラスカ』から12枚の写真（A3サイズ）を提示し，グループでお気に入りの写真を選ばせ，モデル文を参考に描写させた。

本時の目標は，以下の2点である。

1. 星野道夫さんの写真の描写および写真を見た感想を，英語で表現することができる。
2. 温かい雰囲気の中で協同学習が展開され，活発な言語活動ができる。

次の3つの要素を提示し，表現に盛り込むよう指示をした。具体的な内容の指示を与えたほうが生徒は取り組みやすい。

a. 動物の様子・気持ち
b. 自然・風景・季節
c. 写真を見た感想

英文は四つ切りサイズの画用紙にペンで書かせ，同じ文を発表者用の台本としてA4用紙に書かせた。英文作成時の補助として，机上には和英・英和の辞書を用意し，リス（squirrel），羊（sheep），カリブー（caribou）などのヒントワードを写真の裏に添付した。

2. 全員が主役

協同学習の一番の魅力は，同時に多くの生徒が活動に参加でき，全員が自分の役割を果たすことで，活動後に達成感を持つことができることである。

今回の実践では，各グループ（4～5名）内で司会・画用紙記録・発表原稿記録・発表・写真持ちの役割を分担し，必ず全員が活動に参加する手立てを取った。なお，本校では全教科で協同学習を行っており，教科・週によりグループ内の役割はローテーションされる。フォーマルな役割を持つことで，資質・力量が日々育っている。

3. 英語が苦手な生徒が活きる場

学年が進むにつれ学力差が生まれ，学習意欲や発言意欲の低下が懸念される中で，良好な人間関係を育み，英語が苦手な生徒も伸び伸びと活動に参加できるのが協同学習である。私が協同学習で特に心がけているのは，以下の3点である。

1. 間違えてもOK，発言をバカにしない温かい雰囲気づくり
2. 支援的リーダー＊を育て，ペアでもグループでも気軽に教え合える雰囲づくり
3. お互いの良さを見つけ，褒め合える雰囲気づくり

＊支援的リーダーとは，協同学習において，友達の発言を温かく受け止め共感したり，分からない友達に優しく教えてあげたりすることで，温かい雰囲気づくりに貢献してくれる生徒のことである。

本授業の参観者から「誰が英語の苦手な生徒か全く分からなかった」「失敗を恐れない，互いを認め合う雰囲気がありました」「生徒たちの人間関係が良く，話し合いがきちんとできていた」という感想をいただい

たように，今回の活動では英語が苦手な生徒でも動物や自然の描写・写真の感想・記録・発表で活動に参加し，各グループに貢献していた。

4. 授業マネージメント

今回の実践では，全てのグループが8分で描写を書き上げ，6分で発表することができた。ここまで活動をスムーズに進めるためには，生徒の実態に合った手立てと生徒への意識付けが必要である。書く活動に関しては，事前に別の課題で時間内に書き終える練習を2回行った。発表に関しては，発表者，画用紙・写真を持つ生徒の立ち位置，入退場を事前にリハーサルし，公開授業で生徒がとまどわないよう配慮した。

また，当日は時間を逆算し，全てのグループが発表できる時間を確保した。結果，全てのグループが発表を終え，生徒たちは大きな達成感を持つことができた。

ひとつの作品（授業）を作り上げるには，十分な事前指導と授業マネージメントが大切である。

5. 各グループの発表に対してコメントに挑戦

あるグループの発表を紹介する。熊の凶暴さ，鮭の川上りから季節を想像した，表現力豊かな発表であった。

> This is a picture taken by Hoshino Michio. This is a bear. It lives in Alaska. It is catching a salmon. It looks scary. We think this picture was taken in fall. Because salmons are swimming up the river.
>
> ＜原文ママ＞

今回の実践では，各グループの発表に対するコメントを英語で言うタスクにチャレンジさせた。各発表につき3～5人が挙手してくれた。生徒から出たコメントは次のようなものであった。

・The bear looks very strong.
・They are beautiful.
・I think so, too.
・I want to go to Alaska.

短いコメントではあるが，瞬時に自分の考えを英語で表現できたことは評価できる。

6. 協同学習ならではの達成感

最後に，本実践に参加した生徒たちからの感想を紹介する。

・グループの人と一緒に活動したことが楽しかった。
・文をグループで考えるのが楽しかった。他のグループの発表もおもしろかった。文を作るのは難しかったけど，グループの人と協力してできた。
・自分で驚くほど頭の中で文がつくれて，それを文に表すことができた。やっと英語の力が付いてきたと実感できた。楽しかった。

一人での表現活動では個人差が生まれるが，協同学習では，英語が得意な生徒も苦手な生徒も同じ達成感を共有することができる。本時終了後の生徒による授業評価を見ると，「グループの人と協力して活動することができましたか」の項目は4点満点中3.8点であった。本時の目標2は十分に達成されたと言えるだろう。

・楽しかった，またやりたい。アラスカに行ってみたくなった。
・おもしろかった。英語表現も少しでき，分かってきた。
・今回もとても良い授業だった。うまく英語で表現できてよかった。

これらの感想が，私の授業へのエネルギーとなっている。

このクラスの生徒は「英語好き100%」で高校へ巣立っていった。

【参考文献】
星野道夫（1990）『アラスカ 極北・生命の地図』朝日新聞社.